

## 児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2024年3月31日

事業所名 まいるーむ放課後子ども教室ジャンプ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・個別の机を用意し、使用 ・お手洗いへは、手すりを設置	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・業務前と業務終了後に清掃とアルコール消毒の実施 ・運動する場と作業等をする場を分ける	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している				
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・月に1回以上の社内研修の実施 ・外部講師をお招きしての研修の実施	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・SM社会生活能力検査の導入	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・SM社会生活能力検査の導入	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・活動内容をチームMTGで検討し決定	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・活動内容をチームMTGで検討し決定 ・季節の行事等も実施	
16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○				

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・朝礼の実施 ・職員間の連絡ノートの活用	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・終礼の実施 ・職員間の連絡ノートへの記載	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	20	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		・開所し間もなく、医療ケアを必要とする利用児は今現在いないが、今後そのような利用児が出てきた際には、各関係機関と連携を取りその子に適した支援を行っていく
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		・開所し間もなく、医療ケアを必要とする利用児は今現在いないが、今後そのような利用児が出てきた際には、各関係機関と連携体制を整えていく
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・送迎の際に園の職員と情報を共有	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		・この4月より初めて小学校へ入学する利用児が出てきたので、今後放デイの方も連携や情報を共有し、小学校等へ繋げていけるように整えていく
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		・戸外での活動の際に、積極的に交流の場や機会を作っていく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		・積極的に各機関と連絡を取り、開催する際は参加するようにする
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・送迎の際に保護者と密に情報を共有	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		・職員もペアレントトレーニング等の研修等を実施し、子どもだけでなく保護者に対しても支援が出来るようにする	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・開かれた事業所を目指し、いつでも相談等に来てもらえるようにしている	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		・年に一度の保護者会・保護者総会等を実施したり、参観日等を企画するなどし、保護者間の横の繋がりをもてるようにしていく
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・HUGシステムを利用し、そこから色々な情報を発信している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		・開かれた事業運営を計れるように、今後地域の方々にも参加してもらえるようなイベントなどを企画する
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・同じ建物内で、合同の訓練を年に何度か実施している	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・保護者面談にて、定期的に確認している	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・保護者面談等の際に、定期的に確認している	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・事例集はスタッフルームの書庫に置き、常に見返すことが出来る環境にしている	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・虐待防止委員会を設置し、研修を実施している	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。